

第26期「未来の学術振興構想」改訂における審査・評価プロセス及び
「グランドビジョン」の具体化に向けたプロセスについて

2025年10月30日
日本学術会議科学者委員会
学術研究振興分科会

1. 「未来の学術振興構想」改訂版（仮称）の審査・評価の担当組織

(1) 組織

- ① 学術研究振興分科会(以下「本分科会」という)
- ② 未来の学術振興構想評価小委員会(以下「評価小委員会」という)

(2) 評価小委員会等の構成

① 評価小委員会

i 評価小委員会の構成

評価小委員会は、90名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者で構成する。本構成は、幹事会の承認を経て最終決定とする。

評価小委員会には、事情のある者を除き、本分科会の委員も入ることとする。

ii 委員長選出

評価小委員会委員長は、評価小委員会において互選で選出される。

iii 役員会の設置

評価小委員会には、評価小委員会委員長、各グランドビジョンの代表者（後述）から構成される役員会を設置する。

2.(1)②v、2.(1)③iii、2.(2)②v、3.(1)②及び3.(2)③における評価小委員会の意思決定は、本役員会の意思決定をもって代えるものとする。

iv 「グランドビジョン」ごとの担当

2023年版で取りまとめられた19の「グランドビジョン」にそれぞれ3～5名程度ずつ審査・執筆担当の委員を割り振る。各担当には本分科会の委員（評価小委員会委員を兼ねる委員に限る。）を1名以上入れることとする。新規の「グランドビジョン」を作成する場合も同様とし、必要に応じて委員の追加も検討する。

v 各「グランドビジョン」の代表者

各「グランドビジョン」から、iiiの役員会に参加する代表者を1名ずつ決定する。

2. 審査・評価プロセス

(1) 応募区分Ⅰ：追加募集

① 応募提案の取りまとめと送付

- i 本分科会及び日本学術会議事務局（以下「事務局」という）は、提案された「学術の中長期研究戦略」について、資格等の確認を行い、審査の対象とする提案を確定する。

- ii 分科会において、提案された「学術の中長期研究戦略」を19のグランドビジョンに分類する。
- iii 事務局は、小委員会委員に担当する「グランドビジョン」の「学術の中長期研究戦略」及び評価用紙を直接送付する（メール等電子媒体による。）。

② 提案の評価

- i 評価小委員会において、利益相反の考え方、提案の評価方法を確認する。なお、利益相反の定義については、「第26期「未来の学術振興構想」改訂に関わる利益相反排除の方針」（2025年8月28日科学者委員会学術研究振興分科会）（以下「利益相反排除の方針」という）を参照のこと。
- ii 評価小委員会委員は、「学術の中長期研究戦略」の目的・意義を十分に理解の上、担当する「グランドビジョン」の全応募提案を、事前確認の上、自らの見識の下で厳正に評価し、その結果を評価用紙に記入して事務局に送付する。事前確認及び評価の方法はそれぞれ以下③及び④に示す。
- iii 事務局は、評価小委員会委員の評価結果を集計し、その結果を評価小委員会に報告する。その際、評価した評価小委員会委員の名は伏せる。
- iv 評価小委員会は、当該分野の評価結果を、本分科会に報告する。
- v 評価小委員会及び本分科会において、各「学術の中長期研究戦略」を「未来の学術振興構想」に掲載するか否か、再審査を行うかを検討し、決定する。

③ 事前確認

- i 評価小委員会委員は、各「学術の中長期研究戦略」について評価を行う前に、下記項目について事前に各「グランドビジョン」担当者内で確認を行う。
 - ア 現在の「グランドビジョン」のままでよいか（他にふさわしい「グランドビジョン」はないか）。
 - イ 他の「グランドビジョン」にも属する必要があるか。
 - ウ 既存の「グランドビジョン」にない新たな「グランドビジョン」を設け、分類する必要があるか。
 - エ 他の「学術の中長期研究戦略」と内容が重複していないか。
- ii 該当する項目があった場合、事務局にその旨を伝達する。事務局は評価小委員会及び本分科会に報告する。
- iii 評価小委員会及び本分科会において、他の「グランドビジョン」に分類し直すか等の対応について検討を行う。

④ 評価項目

評価小委員会委員は個別に、下記項目に関して2段階で絶対評価を行う。2023年版も参考に、「未来の学術振興構想」に掲載する「学術の中長期研究戦略」としてふさわしい水準である提案を「○」とし、ふさわしい水準を下回る場合には「×」とする。「×」とした場合はその理由を付することとする。

- i 【学術振興の「ビジョン」について】
 - ア 「ビジョン」の豊かさ
 - イ 「ビジョン」を実現するための学術研究構想となっているか
- ii 【学術研究構想について】
 - ア 学術上の意義又は社会的な価値（学術的な意義、分野融合の意義・効果、国内外の研究動向と当該構想の位置付け、国際協力・国際共同）
 - イ 成熟度（実施機関と実施体制、諸経費、実施計画・スケジュール、これまでの準備状況、共同実施体制）
 - ウ 優位性（当該構想の国際的な我が国の優位性）
 - エ 必要性（当該構想に我が国が取り組む必要性、社会的価値）

(2) 応募区分Ⅱ：提言「未来の学術振興構想（2023年版）」に掲載の「学術の中長期研究戦略」の改訂

① 応募提案の取りまとめと送付

- i 本分科会及び事務局は、提言「未来の学術振興構想（2023年版）」に掲載の「学術の中長期研究戦略」（以下「前期戦略」という）について、改訂意向等の確認を行い、審査の対象とする提案を確定する。内容に変更のない前期戦略についても審査の対象とする。
- ii 分科会において、前期戦略を19の「グランドビジョン」ごとに分類する。
- iii 事務局は、評価小委員会委員に当該分野の「学術の中長期研究戦略」及び評価用紙を直接送付する（メール等電子媒体による。）。

② 提案の評価

- i 評価小委員会において、利益相反の考え方、提案の評価方法を確認する。なお、利益相反の定義については、利益相反排除の方針を参照のこと。
- ii 評価小委員会委員は、「学術の中長期研究戦略」の目的・意義を十分に理解の上、担当する「グランドビジョン」の全応募提案を、事前確認の上、自らの見識の下で厳正に評価し、その結果を評価用紙に記入して事務局に送付する。事前確認及び評価の方法はそれぞれ以下③及び④に示す。
- iii 事務局は、評価小委員会委員の評価結果を集計し、その結果を評価小委員会に報告する。その際、評価した評価小委員会委員の名は伏せる。
- iv 評価小委員会は、当該分野の評価結果を、本分科会に報告する。
- v 評価小委員会及び本分科会において、各「学術の中長期研究戦略」を「未来の学術振興構想」に掲載するか否か、再審査を行うかを検討し、決定する。

③ 事前確認

- i 評価小委員会委員は、各「学術の中長期研究戦略」について評価を行う前に、下記項目について事前に各「グランドビジョン」担当者内で確認を行う。
 - ア 現在の「グランドビジョン」のままでよいか（他にふさわしい「グランドビジョン」はないか）。

- イ 他の「グランドビジョン」にも属する必要がないか。
- ウ 大幅な改訂がある場合、応募区分Ⅰと同等レベルの視点で審査を行う必要はないか。
- ii 該当する項目があった場合、事務局にその旨を伝達する。事務局は評価小委員会及び本分科会に報告する。
- iii 評価小委員会及び本分科会において、他の「グランドビジョン」に分類し直すか等の対応について検討を行う。

④ 評価項目

評価小委員会委員は個別に、下記項目に関して2段階で絶対評価を行う。「未来の学術振興構想」に掲載する「学術の中長期研究戦略」としてふさわしい水準である提案を「○」とし、ふさわしい水準を下回る場合には「×」とする。「×」とした場合はその理由を付することとする。

i 【学術振興の「ビジョン」について】

- ア 「ビジョン」の豊かさ
- イ 「ビジョン」を実現するための学術研究構想となっているか

ii 【学術研究構想について】

- ア 学術上の意義又は社会的な価値（学術的な意義、分野融合の意義・効果、国内外の研究動向と当該構想の位置付け、国際協力・国際共同）
- イ 成熟度（実施機関と実施体制、諸経費、実施計画・スケジュール、これまでの準備状況、共同実施体制）
- ウ 優位性（当該構想の国際的な我が国の優位性）
- エ 必要性（当該構想に我が国が取り組む必要性、社会的価値）

3. 「グランドビジョン」の更新に向けたプロセス

(1) 「グランドビジョン」の分類

- ① 評価小委員会は、2. の評価結果を基に、各「学術の中長期研究戦略」を「ビジョン」に基づき、各「グランドビジョン」に分類し、必要に応じて新たな「グランドビジョン」の要否も検討し、本分科会に報告する。
- ② 評価小委員会及び本分科会は、上記①の「グランドビジョン」の分類案を踏まえ、分野横断的な視点から検討を加え、「グランドビジョン」とその実現に必要な「学術研究構想」のリストを決定する。

(2) 「グランドビジョン」の改訂

- ① (1)②の結果を踏まえ、本分科会において、「未来の学術振興構想」の「グランドビジョン」の改訂に向けた検討を行う。
- ② 上記①の検討を踏まえ、評価小委員会においてそれぞれの担当者が「グランドビジョン」を必要に応じて改訂・作成し、評価小委員会及び本分科会に報告する。
- ③ 評価小委員会及び本分科会において、全体を取りまとめる。

4. 守秘義務と評価の非公開審議について

本策定作業に関わる本分科会委員及び各評価小委員会委員並びに事務局関係者には、提案内容及び評価の結果について守秘義務が課せられる。また、本分科会及び評価小委員会における評価に関する審議は非公開とする。

5. スケジュール案

2025 年

- | | |
|-----------------|---|
| 10月1日(水) | 「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募締切 |
| 10月30日(木) | 未来の学術振興構想評価小委員会(第1回)開催
・役員決定
・WGについて
・審査・評価プロセスについて |
| 10月下旬～
11月上旬 | 小委員会委員に当該分野の「学術の中長期研究戦略」及び評価用紙を送付。小委員会委員は提案の評価を実施。 |
| 11月12日(水) | 提案の事前確認の締切。事前確認結果は各グランドビジョン担当の代表者から事務局に送付。 |
| 11月28日(金) | 提案の評価の締切。評価結果は事務局に送付。 |
| 11月下旬～
12月下旬 | 小委員会委員の評価結果を事務局にて集計後、小委員会に報告。
小委員会において評価結果を取りまとめ(小委員会開催)。
本分科会及び評価小委員会において、「未来の学術振興構想」に掲載する「学術の中長期研究戦略」を決定。 |

2026 年

- | | |
|----|---|
| 1月 | 本分科会及び評価小委員会において「グランドビジョン」とその実現に必要な「学術研究構想」のリストを決定。 |
| 2月 | 小委員会において「グランドビジョン」を改訂。 |
| 3月 | 本分科会及び評価小委員会において全体取りまとめ。 |